

第4回 代田の街づくり学習会 開催概要

【日時】 平成26年2月19日（水） 18時00分～19時55分

【会場】 世田谷区立代田小学校 1階図書室

【参加者】 14名

【次第】

1. 開会・主催者あいさつ
2. 「代田の街づくりの目標と進め方」
(有)大戸まちづくり研究所 代表取締役 大戸徹氏
3. 意見交換
4. 今後の予定
5. 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 代田の街づくりに関するアンケート調査 速報集計
- ・ 代田の街づくりの目標と進め方について

【議事】

1. 開会（18:00）

主催者あいさつ（北沢総合支所街づくり課長）

- 本日、学習会の最終回（4回目）となる。今回、代田地区について、かなり広範囲にお声かけさせていただいている。声かけした範囲の真ん中を通る小田急線が地下化され、世田谷代田駅が大きく変わることをきっかけに出発した街づくりにはあるが、これからぜひ協議会を立ち上げ、全体的に将来の街について考えてほしいと思っている。今後の進め方については、本日の後半で意見交換できればと考えているので、よろしく願いたい。

2. 「代田の街づくりの目標と進め方」

(有)大戸まちづくり研究所 代表取締役 大戸徹氏

- これまでに開催した学習会や1月に調査を行った街づくりアンケートの結果を振り返り、今後の「代田の街づくりの進め方(案)」について、配付資料を使って説明した。
(配付資料：代田の街づくりに関するアンケート調査 速報集計、代田の街づくりの目標と進め方について を参照)

3. 意見交換

- 説明のあった「代田の街づくりの進め方(案)」について、参加者全員で意見交換を行った。

(意見1) 今日世田谷代田駅や駅前広場についての議論はしないのか。これまでの駅前広場のワークショップの進め方について納得していない。どうもワークショップ参加者だけで計画を作ってしまったように思っている。ワークショップについては、参加の条件が全ての回に出席することであったために、自分は参加することができなかった。アンケート等で再度駅前広場計画案についての意見を聞いてほしい。設計は変更できないのか。

(意見2) 昨年度行った駅前広場のワークショップについては、徐々に参加者が減ってしまい、その点は残念であったが、時間をかけて話し合いを重ねてきたつもりだ。参加した者としては、話し合いの結果が駅前広場の計画に随分と反映されていると思っている。

(区応答) 参加した皆さんと意見をやりとりして、できる限り計画に反映させたつもりである。理解がしやすいよう、模型もつくるなどして工夫しながら検討している。設計の変更は難しいと思う。また、そもそも駅前広場については、平成12年度から平成25年度まで皆で話し合いを重ねているので、昨年のワークショップや話し合いの結果だけではないことはご理解いただきたい。

(意見3) 駅前計画が変更可能かどうかはまた別の話だが、継続的に協議ができる場を設ければよいのではないのか。駅前広場も含めて議論をし、提案していけばよいのではないだろうか。そのための場、すなわち協議会設立に

- 向けて動き出せばよいと思う。
- (大戸コンサルタント応答)
そのように進めたい。
- (意見4) 前回太子堂2・3丁目地区を見学して、防災に対する切実感には代田地区とは差があると感じた。本地区は住宅も更新されていて燃えにくい建物が多くなっている(代田2丁目)。もう少し気運を盛り上げないと、街づくりが進まないのではないだろうか。
- (吉川コンサルタント応答)
太子堂地区も今だから危機感をもって取り組んだと話しているが、設立当初は、「言われてみればそうだね。」との意見も多く、そこまでの気運ではなかったのではないだろうか。そのような意味でも最初の段階の“意識”や“気運”の問題については、この地区においてもあまり心配はしていない。また、気運などは、協議会のような“場”がないと盛り上がらないものでもある。
- (意見5) 確認なのだが、課題も含めて協議会で考えていくというスタンスでよいのか。
- (吉川コンサルタント応答)
そのように考えていただいてよいと思う。
- (大戸コンサルタント応答)
初めからエリアも固定しないで、緩やかな協議会にしたいと考えている。
- (意見6) 行政がどんどん進めてしまい、後になって「なんなんだ」という結果にしないためにも協議会を設立することに賛成である。自分たちで自分たちのまちをつくる“場”が必要で、組織で考えていくことが大切である。
- (意見7) どれだけの地区の方々が街づくりに関与するかが胆心だと思うのだが、声かけ等はどのような方法があるのか。
- (吉川コンサルタント応答)
チラシ配付もするが、最初からなかなか人は動かないだろう。ホームページも難しい。活動を始める頃は、やはり口コミが大切だと思っている。また、活動を続けていくうちにイベント等を繰り返し実施することで、そのイベントに参加してくださる方が多くなり、会を認知してもらおうというやり方も実は大切だったりする。街づくりは、計画づくりまでは地区(協議会)で取り組むことがそれなりにあるのだが、それで終了ということでもない。その計画を実現するための活動や、話し合いの中だけでは生まれただけの他いろいろなテーマについて取り組むこともあり、時には平仮名のまちづくりが始まることもある。そのようなことについて、いろいろな人が出入りしながら、話し合いを積み重ねていくことが大切である。
- (区応答)
世田谷区では、街づくり条例に沿って協議会を設立すると専門家派遣や協議会助成などの制度がある。そして計画づくりだけで終わりというところでもなく、その計画をいかに実現していくのかといった活動も続けられることができる。ただ、計画をつくった後、協議会活動を継続するかどうかについては、その地区(協議会)によって様々である。例えば、まつりなどのイベントを実施することや、計画実現に向けて話し合いを重ねることなど、活動継続にも様々な形がある。また、どうしても権利に踏み込むテーマについて取り組まなければならない時があるのだが、行政としては、そのような時に協議会が行政と住民の間にあり、中立的な位置にいてくれると大変意味あるものだと思っているし、重要な役割だと考えている。
- (吉川コンサルタント応答)
おもしろいのは、協議会としての活動も継続しつつ、協議会から派生して元気に活動する組織が生まれるケースがあることだ。例えば、協議会で公園計画をつくった後、そこから管理・運営する組織、例えば、公園を育てる会ができたりする。本地区は、駅前広場の管理のあり方などは、行政や小田急だけで取り組まないで自分たちもやろうという可能性は出てくると思っている。
- (意見8) 代田幼稚園は、現在園児が100人を超え、卒園生は3,000人以上である。幼稚園ということもあり、保護者も在宅の方が多く、送迎バスもないために、保護者の方々が送迎をすることになっている。そのような立場からすると、もう少し、“安心して子育てできるまち”の視点がほしいと思っている。ぜひ一緒に取り組みたいと思っている。
- (意見9) 住んでいて楽しい街は、歩いていて楽しい空間があることだと思う。小田急上部もあるので、歩行者空間を考えた街にしたいと思っている。そ

のためにも検討できる場である協議会が必要である。また、現在、歩道が中途半端であり、途中で分断されてしまう箇所がある。そのような具体的なことも協議会で改善していきたい。

(意見10) 地域の動きを皆で見ることができ“場”が必要である。

(意見11) 2丁目は小田急上部利用の話があって楽しそうだなと思った。6丁目は、防災について課題を感じている。自分たちのエリアは何を楽しみに協議会で話し合えばよいのかと考えてしまった。もう少し夢のあることも話し合いたい。苦しいことばかりだと人が集まらないし、楽しいことがないと続かないと思った。

(意見12) 地図上で地区を確認すると、実際地区を歩くのとでは、だいぶイメージが異なるものである。この地区は行き止まり道路、坂、環七があるために実際は歩くが大変な地区である。また、区画が大きい箇所と木造密集エリアが混在している地区でもある。避難場所まで行けない地区もある。このように課題も様々だと思っている。そのようなことから話し合える協議会がほしい。

(意見13) 代田地区の背景、成り立ちを十分理解した上で街づくりを進めてほしい。「ああしたい、こうしたい」だけでは、実際進める時に難しいことが出てくるだろう。そのようなことを考えると、最終的には、地域毎でルールづくりをしたほうがよいのではないかと考えている。

(大戸コンサルタント応答)

最初から、あまり細かく区分して進めると、かえって背景等が計画に反映しにくくなるということもあるだろう。

(意見14) 代田地区は広く、全体を均一に、かつ綿密に進めることは難しいと思っている。全体と個別をどのように絡めていくのか、知恵を絞りながら、全体と個別をその時々で取り組んでいくといった進め方でよいのではないかと。また、あまり盛り上がらない内容、場所については、「こうあるべき」とあまり言うべきではないだろう。思うのは、小田急線世田谷代田駅や駅前広場をきっかけに、1～6丁目の全体で何か取り組むテーマができるのではないだろうか。そういったことも含めて話し合うことが大切である。反対も含めて議論する“場”、アイデアを出し実現できる“場”が必要である。

(大戸コンサルタント応答)

これまでの意見を踏まえると、協議会の進め方は、まずは緩やかな範囲で取り組みつつ、テーマが絞られてきたら個別に進めるべきことをその都度進めていく方法でよいかもしれない。まずは全体で議論し、ある程度テーマが見えてから小さく分けて進めていく方法がよい。協議会に部会、分科会を設置するのもよいだろう。

(意見15) この地区は、街づくりを進める際、線引き、エリア分けが複雑であることは念頭に入れておいたほうがよい。日常の小学校区と非常時の避難場所が異なるし、町会、地区委員、民生委員のエリア分け、出張所単位も一致しない。これらについて、解きほぐしながら街づくりに取り組む協議会であってほしい。

(意見16) 駅前広場については、設計変更が難しいと言われていたが、それらについても課題が出てきたら話し合い、必要な改善できる場であってほしい。また、長期的なことだけでなく、すぐできることについても取り組みたい。

(大戸コンサルタント応答)

これらの意見を踏まえて、区から皆さんに進め方のご提案ができればと考えている。

4. 今後の予定

- 街づくりニュース10号を3月上旬に発行する予定です。内容は、第2回、第3回の学習会のようすを掲載します。
- 3月中に地域で活動されている町会、商店会、PTA等の団体に声かけをして、本日の学習会での皆さまのご意見を踏まえた上で、今後の街づくりの進め方について意見交換する機会を設ける予定です。それらの意見がまとまりましたら、5月を目途に街づくり協議会設立に向けて、準備会の呼びかけをしたいと考えています。
- 準議会については、今回学習会に参加された皆さまには、開催のご案内をお送りする予定です。なにとぞ、ご協力お願いできればと考えております。

5. 閉会（19:55）

主催者あいさつ（北沢総合支所街づくり課長）

- 情報量の差があると行政と地区で意見の差も出てしまうと思った。駅前広場についても情報量の差を少しでも埋めて、議論が進めていければと考えている。
- 区も協議会の場があれば、どんどん情報を出していきたい。学習会は今回で終了だが、協議会が設立したら、ぜひご参加いただければと思っている。まずは、緩やかな形からスタートしていきたい。

以上